

長野県観光の現状と課題

1 長野県観光の現状

(1) 観光旅行者数・消費額の動向

長野県の観光旅行者数・観光消費額は平成11年以降減少傾向となっており、近年は、平成20年秋のリーマンショックを契機とした世界同時不況や東日本大震災、歴史的な円高などによる経済の長期的な停滞が観光動向に大きな影響を与えている。

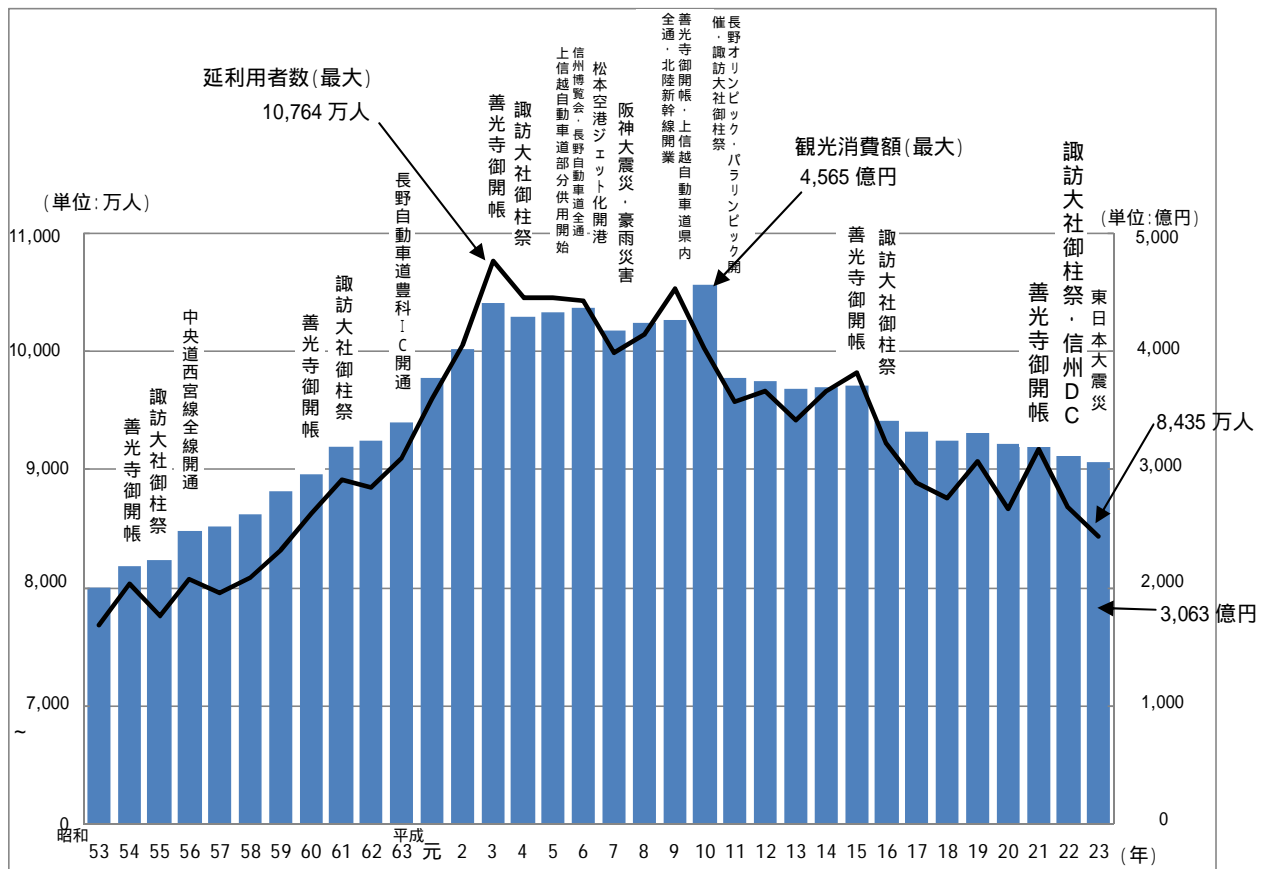
観光旅行者数・観光消費額の減少の要因としては、景気の低迷のほか、高速交通網の整備による日帰り圏化や、スキー客の減少による宿泊旅行者の減少などが考えられる。

宿泊旅行者数の全国における比較では、長野県は第5位となっている。

東日本大震災後の本県への観光旅行者数は大きく減少したものの、平成23年6月以降回復した。

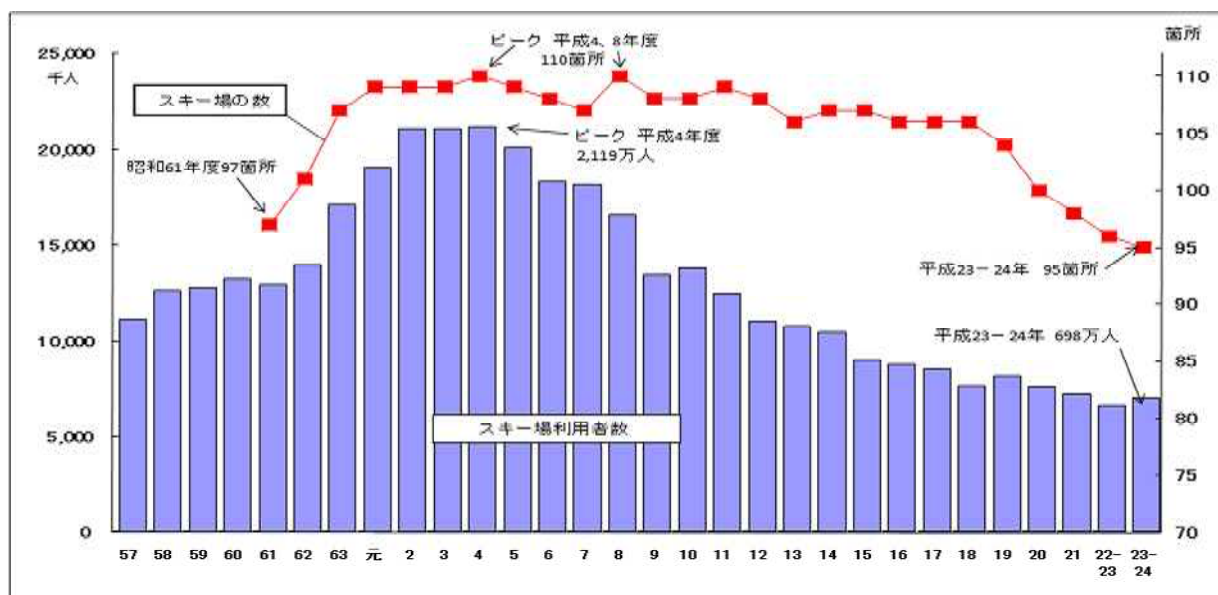
外国人旅行者については、アジア地域の経済発展や国・県の誘客宣伝等によって増加傾向にあったが、東日本大震災や原発事故の影響により大幅に減少した。

観光旅行者数及び観光消費額の推移



資料：長野県観光部「観光地利用者統計調査」

スキー場利用者数とスキー場数の推移



資料：長野県観光部「スキー・スケート場利用者統計調査」、「スキー場等現況調査」

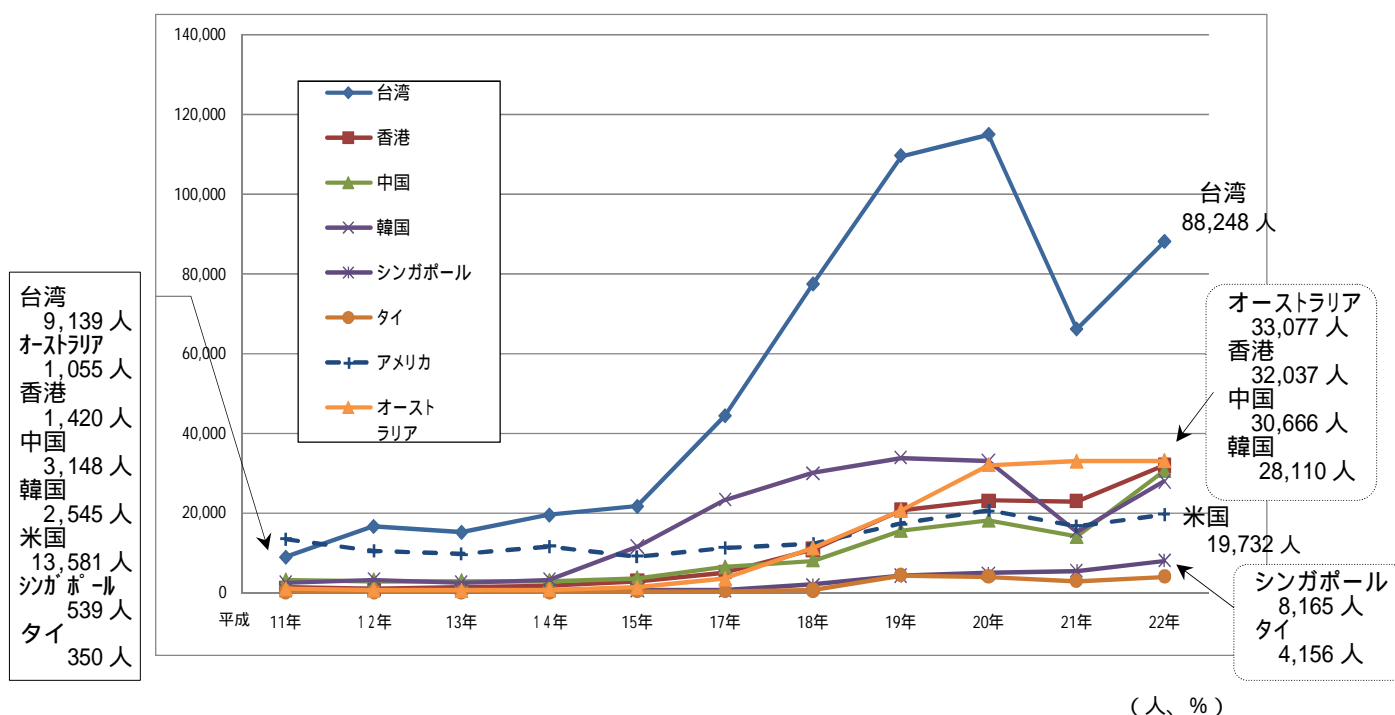
延宿泊者数の全国比較

(万人)

1位	東京都	4,153
2位	北海道	2,729
3位	大阪府	2,176
4位	静岡県	1,941
5位	長野県	1,938
6位	神奈川県	1,633
7位	千葉県	1,596
8位	京都府	1,441
9位	沖縄県	1,415
10位	福岡県	1,324
11位	愛知県	1,241
12位	兵庫県	1,189
13位	福島県	1,080
14位	新潟県	1,037
15位	宮城県	979

資料：観光庁「宿泊旅行統計調査 (H23)」

外国人宿泊者数の推移



年	11	13	15	17	19	21	22
延べ宿泊者数	46,689	50,472	67,555	116,630	281,469	234,561	304,972
伸び率	100	108.1	144.7	249.8	602.9	502.4	653.2

(11年を100とする)

資料:長野県観光部「外国人宿泊者数調査」

(2) 東日本大震災の観光への影響

近年の全国的な観光動向としては、景気低迷の影響から「安・近・短」が堅持されていたが、東日本大震災の発生により節電が求められ、長期休暇が取得しやすくなるという社会環境の変化があった。これにより「ロングステイ」が新たな観光の動向として注目されているが、今後も我が国に浸透するかについては、社会的な条件である長期休暇の取得が可能であることや、「滞在中どう過ごすか」に対応する受け入れ側の提案ができるかが課題。

震災後、東京電力管内における節電需要の高まりを背景に「涼」を求めた観光旅行者が長野県へ例年以上に訪れる現象がみられた。その後、原発の稼働状況の変化により、全国的に節電が求められており、今後の電力供給の状況などを注視していくことが重要。

消費者のライフスタイルの変化や防災意識の高まりにより、旅行に対して「環境」や「安全性」を重視する傾向がみられる。

全国の訪日外国観光客の動向については、震災直後の平成 23 年 4 月は対前年同月比マイナス 80%程度にまで落ち込んだものの、その後、平成 24 年 3 月には、対平成 22 年同月比でマイナス 7 %程度となり、市場全体では、震災の影響から回復しつつある。しかしながら、国、地域により回復状況に偏りがあり、中国、台湾、タイ等については震災前と比較して増加しているものの、韓国、香港、シンガポール等は回復が遅れている。

(3) 観光旅行者の属性

長野県を訪れる宿泊観光旅行者の居住地は、平成 22 年度調査では関東エリア（51.6%）及び東海エリア（17.8%）で約 7 割を占め、首都圏、中京圏からの旅行者の比重が高かった。これに対して、平成 23 年度調査では関東エリア・東海エリアの割合が 5 割程度に落ち込んだのに対し、甲信越エリアの割合が 32.1%（前年度 9.8%）と大幅に上昇している。このことから、平成 23 年においては、東日本大震災や原発事故の影響により県外からの宿泊者が減少する中で、県民は県内の目的地を旅行先として選択する傾向にあったことが考えられる。

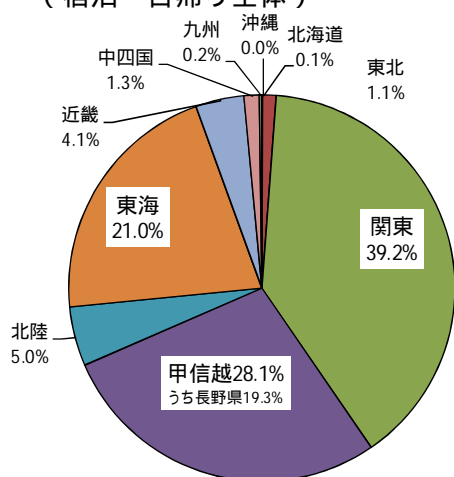
宿泊・日帰りの割合を他県と比較してみると、他県に比べ県外宿泊者の割合が高い。

観光地までの交通手段は、自家用車が過半数を占め、自家用車、バスなどのクルマ利用者は全体の 8 割以上となっている。

宿泊旅行者の年代別では、50 歳代以上の割合が約 6 割を占めている。

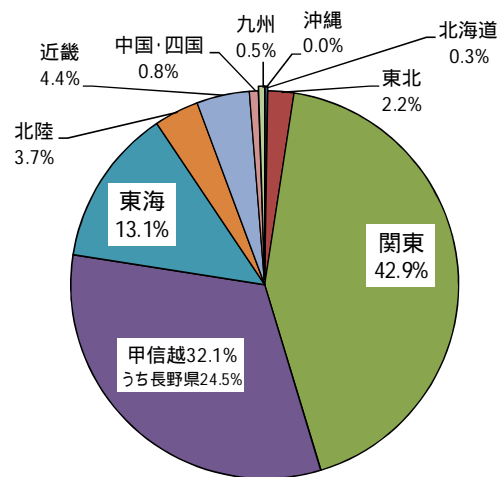
観光旅行者の居住地ブロック

(宿泊・日帰り全体)



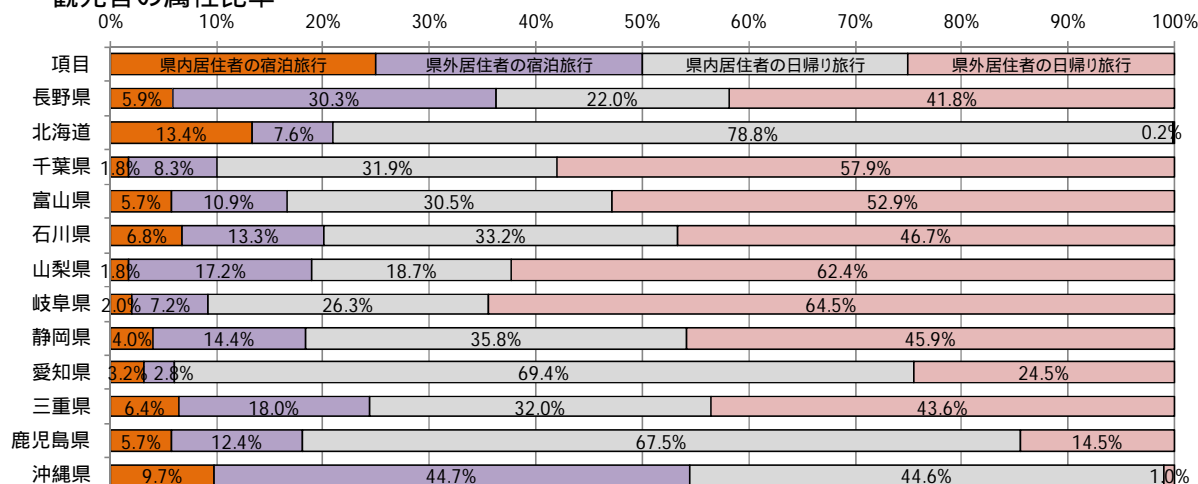
資料：長野県観光部「観光地点パラメータ調査(平成 23 年度)」

宿泊旅行者の居住地ブロック



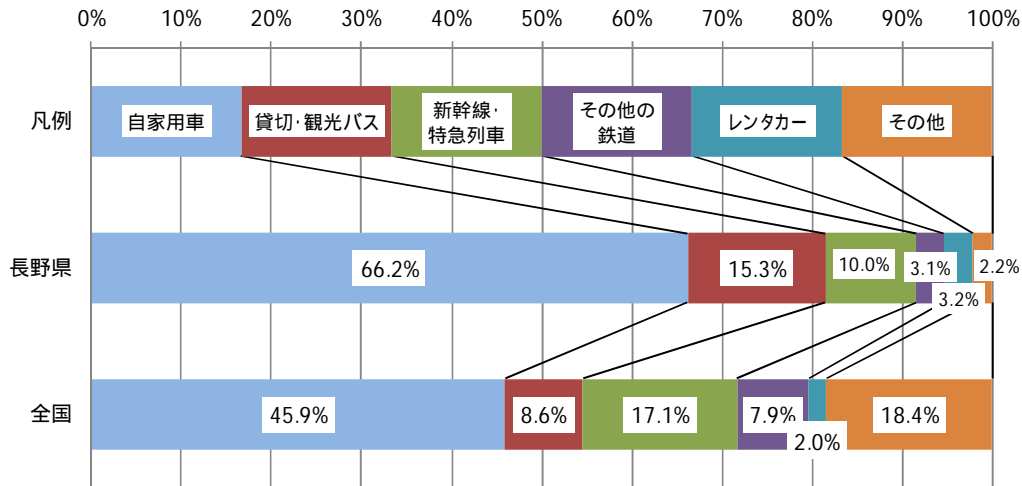
資料：長野県観光部「観光地点パラメータ調査(平成 23 年度)」

観光客の属性比率



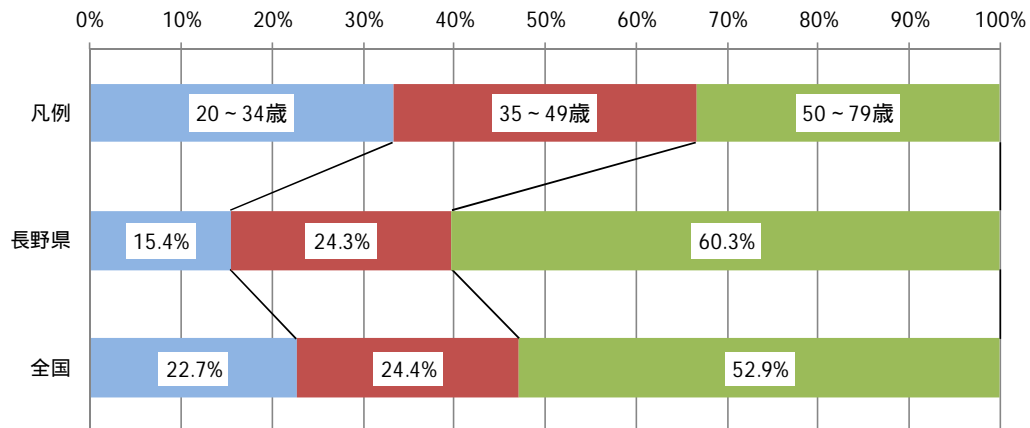
資料：観光庁「全国観光入込客統計に関する共通基準(平成 22 年度)」

観光地までの交通手段



資料: (株)じゃらんリサーチセンター「じゃらん宿泊旅行調査 2011」

宿泊旅行者の年代別構成



資料: (株)じゃらんリサーチセンター「じゃらん宿泊旅行調査 2011」

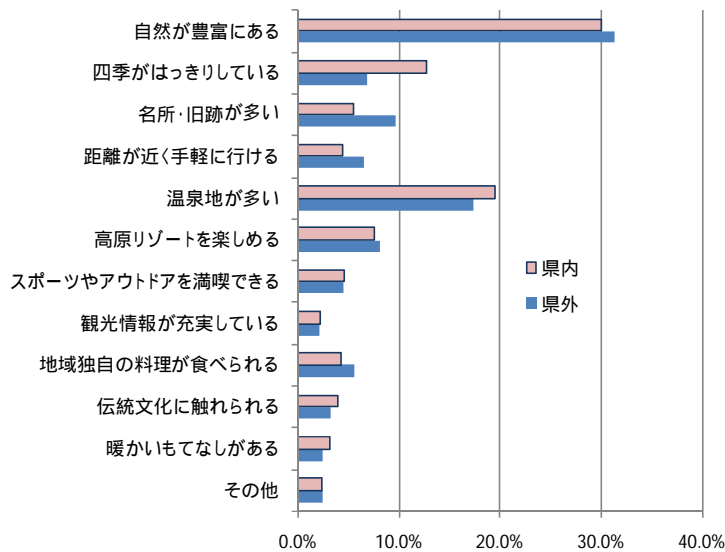
(4) 長野県観光の魅力

長野県への観光旅行者からみた長野県の魅力は、「自然が豊富」「温泉地が多い」の項目が多くなっている。

地域ブランド力としての魅力は全国8位となっている。

県外旅行者に長野県で体験したこと及び今後体験してみたいことを聞いた調査では、「自然や秘境体験、エコツアー」「農業体験」「健康や美容増進の体験」などが潜在需要として浮かび上がっている。

長野県の魅力



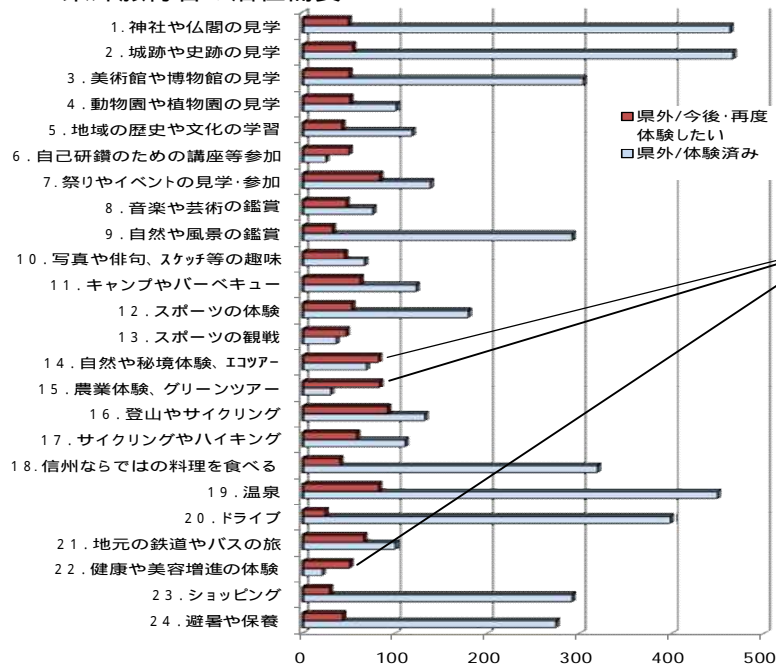
資料：長野県観光部「観光地点パラメータ調査(平成23年4-6月)」

地域ブランド力評価

順位	地域名	点数	2010年順位
1	北海道	70.7	1
2	京都府	53.4	2
3	沖縄県	50.3	3
4	東京都	40.3	4
5	奈良県	34.0	5
6	神奈川県	30.6	6
7	大阪府	29.4	7
8	長野県	28.9	10
9	兵庫県	27.0	8
10	福岡県	26.7	12
11	長崎県	25.9	9
12	静岡県	23.6	11
13	石川県	22.7	16
14	青森県	21.4	15
15	宮城県	21.0	13
16	千葉県	20.9	14
17	鹿児島県	20.2	19
18	秋田県	19.3	20
19	熊本県	18.1	21
20	愛知県	17.7	17
20	広島県	17.7	22

資料：(株)ブランド総合研究所「地域ブランド調査2011」

県外旅行者の潜在需要



潜在需要が高い「体験済み」よりも「今後・再度体験したい」の方が上回るもの。

資料：長野県観光部「観光地点パラメータ調査(平成23年7-9月)」

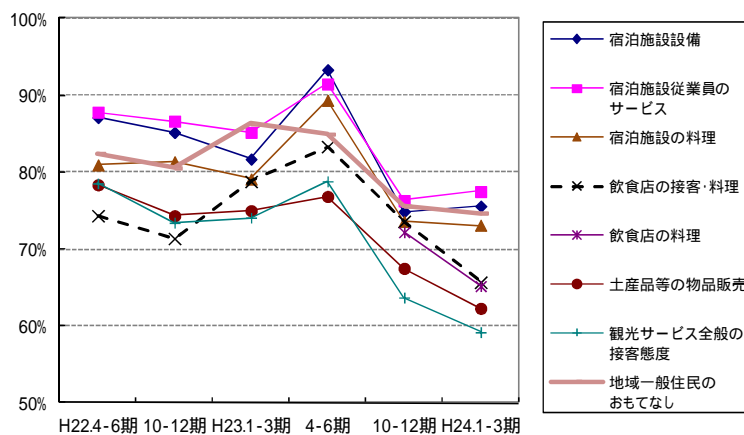
(5) 観光旅行者の満足度

長野県を訪れる観光旅行者からみた接客や料理等の観光サービスに対する満足度について調査したところ、飲食店の料理や土産品等の物品販売、観光サービス全般の接客態度についての満足度が低くなっている。

魅力的なスポットや施設、食べ物などを含めた総合的な満足度は全国平均をわずかに上回っており、全国における順位では22位となっている。

来訪経験については、数年内に2回以上の来訪者の比率が全国平均に比べ高く、リピーター率が高水準である一方、初回訪問者の割合が低くなっている。

長野県の観光サービスに対する満足度の割合



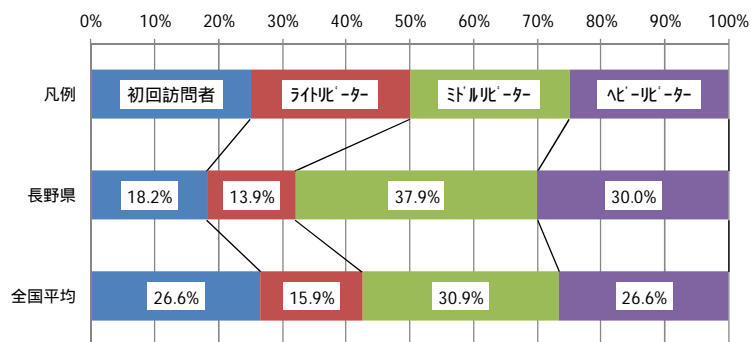
資料：長野県観光部「観光地点パラメータ調査」

満足度の全国順位

	長野県	順位	全国平均
総合的な満足度	84%	22位	83%
地元ならではのおいしい食べ物が多かった	52%	38位	57%
魅力のある特産品や土産物が多かった	44%	31位	45%
魅力的な宿泊施設が多かった	41%	19位	41%
子供が楽しめるスポットや施設が多かった	18%	24位	22%
若者が楽しめるスポットや施設が多かった	24%	14位	27%
大人が楽しめるスポットや施設が多かった	43%	13位	42%
地元の人のホスピタリティを感じた	27%	23位	27%

資料：(株)じゃらんリサーチセンター「じゃらん宿泊旅行調査 2011」

来訪経験



- ▶ 初回訪問者・・・初めて来た人
- ▶ ライトリピーター・・・最近1年以内に1回来訪、その前は3年以上前に来訪
- ▶ ミドルリピーター・・・最近1年以内に1回、3年以内に2回以上来訪
- ▶ ヘビーリピーター・・・最近1年以内に2回以上来訪

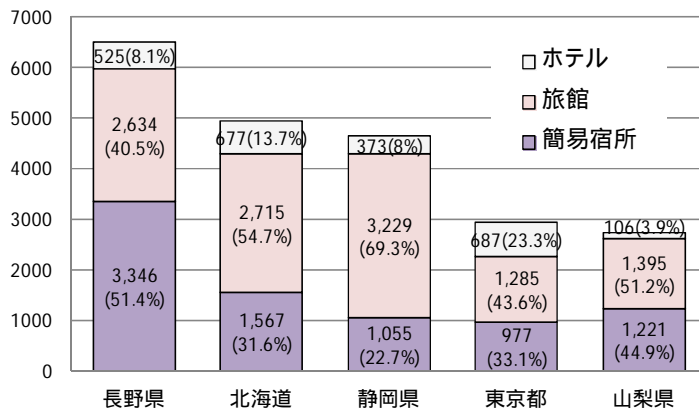
資料：(株)じゃらんリサーチセンター「じゃらん宿泊旅行調査 2011」

(6) 宿泊施設の状況

長野県の宿泊施設数は全国1位となっており、他県に比べ民宿やペンションなどの簡易宿所の割合が高い。

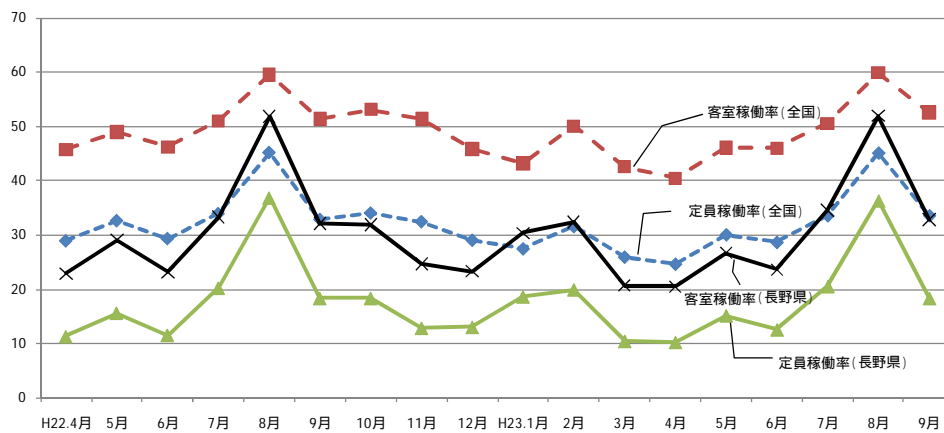
宿泊施設の客室稼働率は全国平均を大きく下回っており、全国最下位水準となっている。

施設数上位5都道府県の種類別施設数



資料：厚生労働省「衛生行政報告例(平成22年度)」より作成。

定員稼働率、客室稼働率の推移



資料：観光庁「宿泊旅行統計調査」

2 長野県における観光産業の重要性

(1) 観光産業の規模

観光産業は、宿泊業、飲食業、鉄道業、運輸業など幅広い分野を包含したすそ野の広い産業である。

長野県の観光産業の規模(平成23年(2011年)長野県の観光消費額)は3,063億円で、農業産出額2,243億円の約1.4倍となっており、県内主要業種と比較して重要な位置を占めている。

長野県の観光消費額の規模比較

業種(産業)	規模(億円)	備考
電機・情報・電子	25,512	製造品出荷額など
機械	8,816	製造品出荷額など
食料・飲料	5,894	製造品出荷額など
観光産業	3,063	観光消費額
農業	2,243	農業産出額

資料：長野県企画部「工業統計調査(速報)」、関東農政局長野農政事務所「長野農林水産統計年報」
いずれも平成22年。観光消費額は長野県観光地利用者統計(平成23年)。

(2) 観光産業の位置付け

ホテル・旅館の事業所数や従業者数の占有率の高さなどからも、観光産業は、長野県の基幹産業の一つに位置付けられる。

観光産業の事業所数・従業者数

分類	事業所数				従業者数			
	全 国		長 野 県		全 国		長 野 県	
	(所)	占有率 (%)	(所)	占有率 (%)	(人)	占有率 (%)	(人)	占有率 (%)
ホテル・旅館など宿泊業	60,768	1.08	4,650	3.81	769,959	1.22	34,962	3.30
飲食店	673,458	11.14	12,041	9.85	4,421,927	7.03	62,304	5.87
鉄道業	5,275	0.09	215	0.18	275,173	0.44	5,579	0.53
道路旅客運送業	30,201	0.50	388	0.32	621,855	0.99	8,618	0.81
博物館・美術館	4,314	0.07	258	0.21	31,827	0.05	1,486	0.14
動物園・植物園・水族館	387	0.01	11	0.01	10,861	0.02	134	0.01
ゴルフ場	2,867	0.05	83	0.07	147,431	0.23	3,238	0.31
公園・遊園地	1,960	0.03	50	0.04	66,100	0.11	365	0.03
公衆浴場等	8,294	0.14	196	0.16	89,340	0.14	2,158	0.20
上記産業分類合計	787,524	13.03	17,892	14.64	6,434,473	10.23	118,844	11.21
全 産 業	6,043,300	100.00	122,192	100.00	62,860,514	100.00	1,060,563	100.00

資料：総務省統計局「平成21年経済センサス基礎調査」